

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」
ヨハネによる福音書3章16aより



きょうかいがっこうれいはい
教会学校礼拝プログラム

2025年 11月30日

ぜん そう
前 奏
*賛 美

いの
お祈り

「主を待ち望むアドヴェント」こどもさんびか改定版65

てん ちち かみさま しゅ み な さんび がつ こうはん じょじょ さむ きせつ
天の父なる神様、主の御名を賛美いたします。11月も後半になり、徐々に寒くなる季節になり
ましたが、教会学校では、来るクリスマスに向けて、こどもたちが一生懸命にイエスさまをお
迎えする学びと準備をしています。こどもたちをどうぞ神様が守ってください。新しい一週間は
げんき す 元気な過ごすことができますように。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。アーメン。

せい しょ
聖 書

マルコによる福音書13章33節～37節 (p88) 【日本聖書協会共同訳】

こうとく しへん
交説詩編
説 教

リタニー

「目を覚ましていなさい」

アドヴェントに入りました。ろうそくの炎が一つ灯りました。私たちは4本のろうそくに炎が灯
る、イエスさまのお誕生を心待ちにしていますね。イエスさまはお生まれになってから、十字架に
かかって死なれました。そして3日目に復活され、天に昇って行かれたのです。私たちはクリスマ
スを待つと同時にイエスさまがもう一度来てくださるのを待ちっています。イエスさまは弟子た
ちに、「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたは知らないからで
ある。」と語られました。ここでイエスさまのおっしゃる「目を覚ます」とは、眠らずにずっと起き
ていなさいという意味ではありません。
かみ わす かみ ぼう み い
神さまを忘れず、神さまの方を見て生きることなのです。

あんしやうせいく
暗唱聖句

「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつであるか、
あなたがたは知らないからである。 マルコによる福音書13章33節

もくそう
黙想タイム

*賛 美

「きけ、あれのから」讃美歌 21-237

けんきん かんしや
献金と感謝

のお祈り 24-1

*主の祈り

てん まし ます われ うち なが め な めく に き
天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我
らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
われ ぐわい ぐわい ぐわい ぐわい
我らを試みにあわせず、悪より救い いただいたまえ。
くに ちから さい かし
国と力と栄えとは、限りなく なんじのものなればなり。アーメン

おし
お知らせ

- ・アドヴェントに入りました。クリスマスにイエスさまをお迎えする準備をしましょう。
- ・分級ではページエントの練習があります。
- ・次週のお話 も楽しみにお待ちください。

*賛 美

36 いまでかけよう

*祝 福

八木浩史牧師

*後 奏

33「^き気をつけて、^め目を覚ましていなさい。その^{とき}時がいつであるか、^しあなたがたは知らないからである。34それはちょうど、^{いえ}家を^{あと}後に^{たび}旅に^で出る^{ひと}人が、^{しもべ}僕^{せきにん}たちに^{あた}責任を^{しごと}与えてそれぞれに^{たく}仕事を託し、^{もんばん}門番には^め目を覚まして^さいるようにと、^い言いつけるようなものである。35だから、^め目を覚ましていなさい。いつ^{いえ}家の^{しゅじん}主人が^{かえ}帰って来るのか、^{ゆうがた}夕方か、^{よなか}夜中か、^{にわとり}鶏の^な鳴く^{ころ}頃か、^あ明け^{がた}方か、あなたがたには^わ分からないからである。36^{しゅじん}主人が^{とつぜんかえ}突然帰って来て、あなたがたが^き眠っているの^{ねむ}を見つ^みけるかもしれない。37あなたがたに^い言うことは、すべての^{ひと}の人に^い言うのだ。^め目を覚ましていなさい。」

<さんび>

主を待ち望むアドヴェント

1. しゅをまちのぞむアドヴェント さいしよのろうそくともそう
しゅがみちをそなえられた このときをまもう
* (くりかえし) しゅのたまよ、よろこべ しゅはちいかい
2. しゅをまちのぞむアドヴェント だい2のろうそくともそう
しゅがなされたそのように たがいにたすけよう *
3. しゅをまちのぞむアドヴェント だい3のろうそくともそう
しゅのめぐみてりかがやき くらやみをてらす *
4. しゅをまちのぞむアドヴェント だい4のろうそくともそう
しゅはこのよにきたりたもう こころこめうたおう



きけ、あれのから

(讃美歌21-237)

- 1 きけ、あれのからとどくこえを。
「みちをそなえよ、しゅがこられる。
たにまはたかく、おかはひくく、
でこぼこのみちは たいらになれ」
- 2 みよ、くさばなは かれてしぼむ。
ひとはみなくさ、のにさくはな。
このよのさかえ ゆめときえる。
みかみのことばは とこしえまで。
- 3 よいおとずれを つたえるもの、
やまやまをゆき、こえをあげよ。
「よろこびうたえ、シオンのため、
おおなるみかみが いまこられる」
- 4 しゅはくにぐにの あいだにたち、
あくをただして おさめられる。
ひつじかいなる しゅはわれらを
へいわのまきばに ともなわれる。

